#### 研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 6 年 6 月 1 7 日現在

機関番号: 13301

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2020~2023

課題番号: 20K00926

研究課題名(和文)植民地期インドをめぐる思想の諸相:ヨーロッパの視点とインドの視点の交差

研究課題名(英文)Aspects of Ideas in Colonial India: The Intersection of European and Indian

Perspectives

#### 研究代表者

苅谷 千尋 (KARIYA, Chihiro)

金沢大学・高大接続コア・センター・特任助教

研究者番号:30568994

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、イギリスに代表されるヨーロッパの諸思想が、17-20世紀にわたる植民地期インドにおいてどのように受容、利用され、変容していったのかを明らかにするものである。本研究は、C. A. Baylyらに代表される受容史の研究動向を強く意識しながら、1. 政治思想、2. 経済思想、3. 国際思想の3つのレイヤーごとに、ヨーロッパ思想の受容史を描いた。 このなかには、インドにおける教育を例に、ヨーロッパの諸思想が植民地統治の諸政策に与えた影響の分析も含まれる。幾つかの例示を通して、ヨーロッパの視点とインドの視点がどのように交わったのか、またその交差によって何が生じたのかを解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義 本研究の主要な学術的意義は、植民地期インドにおけるヨーロッパ思想の受容を、インドの視点に立って再構築し 本研究の主要な子州的意義は、信民地朝インドにおけるコーロッパ志念の文替を、インドの視点に立って特備業した点である。当時のヨーロッパ人がもつ文明と野蛮という図式は、従来、想定されてきたよりも絶対的なものではなく、またヨーロッパはインドを知ることで自らの文明を反省的に捉える契機となった面もある。一方で、インドの側においても、ヨーロッパの思想を積極的に学び、ヨーロッパの思想を用いて、ヨーロッパに反論する事例や、自分たちの歴史認識と叙述をあらためる契機となった側面も明らかになった。

研究成果の概要(英文): This study explored how European thought, particularly from Britain, was received, used, and transformed in colonial India during the 17th-20th centuries. Inspired by the research trends represented by C. A. Bayly, this study traced the history of the receptions in each of the three layers of 1) political thought, 2) economic thought and 3) international thought. In addition, it analysed the impact of European ideas on the various policies of the colonial government, using education in India as an example. The study was able to illuminate, through several examples, how the European and Indian perspectives intersected and what resulted from the intersections.

研究分野: 政治思想史

キーワード: ブリテン インド 文明と野蛮 教育 国際法 通商 貧困 受容史

### 1.研究開始当初の背景

- (1) 近現代インド史を牽引してきた、ケンブリッジ学派、サバルタン・スタディーズの双方にお いて、ヨーロッパ思想がインドに与えた影響は十分に考察されなかった。1980年代以降、近現 代インド史研究は、しばしば、ケンブリッジ学派とサバルタン研究グループの対立と解されてき た。ジョン・ギャラガーらを代表とする前者は、インド国内における諸エリート間の対立を浮き 彫りにすることで、インド現地民の諸運動を一律に「ナショナリズム」へと還元する解釈群を批 判した。彼らは、権力闘争に焦点を当てるがゆえに、思想やイデオロギーを軽視する傾向が見ら れた。一方のラナジット・グハを中心とするサバルタン研究グループは、ケンブリッジ学派をエ リート主義だと批判する。彼らは、動員の対象や「客体」として触れられるに過ぎなかった非エ リート「サバルタン」の運動史を再解釈し、彼らの自律的な意見、慣習、秩序意識といった「民 のモラル」の存在を明らかにした。この議論の線上に、チャタジーのポストコロニアルな政治理 論がある。彼らは「サバルタン」に対するヨーロッパからの影響は限定的だと解する。またフー コーに触発された、数値と統治の技法を繋ぐ研究群 ( バーナード・コーンら ) においても、思想 が果たす役割は小さい。言説の権力性と向き合ったサイードらの「オリエンタリズム」論は、ヨ ーロッパからの視点の偏向性を指摘する点において重要ではあるが、彼らもまた、概して、ヨー ロッパの著作を軽視し、「真正の」現地史料の優位性を説いてきた。このように、研究開始当初は、 先行研究において、1. ヨーロッパとインドはもっぱら対立的な存在として理解され、2. ヨーロ 特に、J.S.ミルの著作など「正典」と見做されてきた著作群 の受容やその歴 ッパの思想 史、またはそれを起点とする交流に十分な光が当てられていないという背景があった。
- (2) 一方で、イギリス思想史研究は、個々の思想家のインド理解を考察するに留まっており、研究者が対象とする思想家の生涯を超えた、通史的観点が不十分である。そのため、思想や言語の変容も十分に明らかにされていない。また、通常、思想史研究は、大きく、政治思想、経済思想、社会思想、国際思想に分かれており、これらの既存の学問領域を超えた研究交流はなされておらず、植民地統治という多領域にまたがる現象を把握できていなかった。
- (3) 本研究の主たる着想は、ケンブリッジ学派の非主流派であったベイリ(C. A. Bayly, Recovering Liberties, Cambridge: Cambridge University Press, 2012)から得た。彼はケンブリッジ学派において例外的に、いち早く、思想やイデオロギーに留意してきたからである。ベイリは、ラムモーハン・ローイを含む、インド亜大陸の中間層の「自由」理解の変容や、英印の理解のズレを考察した。また彼は、自由主義を主題化することによって、植民地期間全般にわたる思想史的変容を叙述することに成功した。彼を嚆矢として、インド現地民が臣民性をどのように利用したのかを明らかにする研究(H. W. Muller, Subjects and Sovereign, Oxford: Oxford University Press, 2017)が現れるなど、近現代インド史における政治思想の再発掘が進んでいる。しかしその全容は依然、不明瞭である。

# 2.研究の目的

本研究の課題は、イギリスに代表されるヨーロッパの諸思想が、**17-20** 世紀にわたる植民地期インドにおいてどのように受容、利用され、また、変容していったのかを明らかにすることで、ヨーロッパとインドの思想の交差を析出し、分析することである。この課題は、具体的には次の二つの目的を設けて、探究された。本研究の第一の目的は、近現代の植民地期インドにおいて、ヨーロッパ人がインドをどのように見たのか、またインド現地民がヨーロッパをどのように見ていたのかを明らかにすることである。二つ目の目的は、両者の視点が交差、交流した、諸制度の設計やその運用、あるいは新しい思想を明らかにすることである。

# 3.研究の方法

本研究は主に、クエンティン・スキナーが提唱、牽引するテクストの読解やコンテクストの再構成を用いて、「正典」や一次史料を解明した。すなわち「正典」の読解のみならず、「正典」が正典とされた経緯や経路、また「正典」と同時代の、今では忘れられたテクストもあわせて、思想史を再構成した。特に、ヨーロッパとインド間の影響関係、交流関係を明らかにするために、受容史の観点が重視された。また、植民地統治という複雑かつ重層的な現象を解明するために、政治思想、経済思想、国際思想という3つのレイヤーに分け、それぞれのレイヤーを分析したうえで、最終年度に各レイヤーを重ねるという方法を採った。

# 4.研究成果

# (1) ヨーロッパの視点

17世紀におけるヨーロッパ人のインドへの視点は、角田俊男「オランダ東インド会社の自由な海を閉じるリヴァイアサン」において論じられた。オランダ東インド会社の交易活動の正当化とかかわったグロティウスは、ヨーロッパ人のアジア地域への支配原理 「異教徒」と「蛮族」にキリスト教と文明を伝え教化する を否定する。グロティウスはヨーロッパの自然法を、両

インドを含む世界全体に拡張適用し、東インド会社もインドの現地の諸王国も条約や戦争の主体として認めた。この際に留意すべきは、インドの諸王や人びとが自由な通商の権利主体として認められることによって、彼らは通商関係から生じる義務を負ったという点である。すなわち、交易の過程で所有権の侵害があれば、その賠償を戦争の権利に訴えても追求することが可能だった。実際、軍事力による条約の強制と違反への懲罰という「合法」の形式で、オランダ東インド会社の植民地帝国支配の拡張がなされた。また、必ずしも戦争を伴わないとしても、帝国による人道主義を装う介入が認められ、依存関係により主権の間の平等が損なわれた。角田論考が指摘するもう一つ重要な点は、このようなグロティウスの論法がヨーロッパの唯一の支配原理ではなかったという指摘である。オランダと競争したイングランドのなかからグロティウスへの対抗言説が生まれた。たとえばセルデンは、個別の世俗国家主権による限定的に拡大する領海を主張し、またホップズは主権の分割、分散を否定し、戦争権の主体を公権力に限定することで、紛争や戦争の偶発的な可能性を防ぎ、平和な国内秩序が多元的に共存する国際社会を志向した。

18世紀末から 19世紀前半のヨーロッパの視点は、苅谷千尋「ボンベイのジェームズ・マッキントッシュ:スコットランド啓蒙の植民地統治」において中心的に扱われた。マッキントッシュは、今日では論究されることが少ない政論家、思想家であるが、彼の著作『自然法と諸国民の法論』(1799)には、彼の国家、国家間関係についての考えが、原理的、体系的にまとめられ、同時代に大きな影響力をもった。本書は帝国や植民地を論じていないという点で異色である。マッキントッシュが本研究プロジェクトにおいて重要なのは、彼がボンベイ記録官としてインドに滞在する経験をもったからである。彼はその主要業務である司法行政については熱心に論じているが、英印関係を国家間関係という文脈で論じることはない。ブリテンが支配する亜大陸は、ブリテン帝国の一部であるがゆえに『自然法と諸国民の法』の理論の対象外である。彼の日記には、ブリテンの保護国だったマラーター王国ペーシュワー政権があたかも独立した国家であるような会話が残されている。彼の理論は、国際社会の構成員を国家 帝国や植民地は考察から除外されている と措定し、その関係を対等することで、宗主国と保護国のような不平等な関係を十全に認識することを阻むものだった。

#### (2) インドの視点

18 世紀後期から 19 世紀前期におけるインドの視点は、角田俊男「多神教とブリテン帝国ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」 」において扱われた(この論考は、インドの視点だけでなく、宗教や宗教解釈を介したヨーロッパとインドの視点の交差自体を直接論じている)。ブリテン帝国のインド統治を契機とするヒンドゥー教研究は、多神教の迷信を矯正し、普遍的な一神論に純化する政治的意味を伴った。この運動のイングランドの側の代表者であるアレクサンダー・ダウは、ヨーロッパの理性的で真の宗教を追求する啓蒙思想の枠組みから、古代ヒンドゥー教の原典を読解し、古代ヒンドゥー教は一神教だったという解釈を導いた。このような姿勢はヨーロッパの視点の投影ではあるが、インドを異化し、野蛮と見なす偏見からは免れていた点は軽視できない。他方で、ベンガルの文化・教育・社会改革運動を展開したヒンドゥー教徒ラムモーハン・ローイは、福音書からイエスの教えを抜粋し、サンスクリット語とベンガル語訳を公刊するなどの活動もおこなった。彼は、ヒンドゥー教とともにキリスト教の一神論を徹底化するが、それは、インド側からのキリスト教を含む人類の普遍宗教を創出する主体的な取り組みであったと解せる。すなわちブリテン帝国は「ヴェーダンタ哲学と理神論とユニテリアニズムを結びつける思想交流の場」だったのである。

19世紀後期におけるインドの視点は、安川隆司「ミル父子はインドでどのように読まれたか:ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち」で論じられた。安川論考は、ボンベイ管区(現在のマハーラーシュトラ州)を中心に、西洋式の高等教育を受けた19世紀後半のインドの知識人たちが、ジェイムズ・ミルとジョン・ステュアート・ミル父子の著作をどのように読み、自らの主張にそれを取り入れたのかを解明する。ラーナデー、テーラング、アガルカールの3人は、バラモンの家系の出であり、みな国民会議に参加した。ナオロージーとメータはイスラム教徒の圧迫を逃れて西インドに定住したゾロアスター教徒の末裔であるが、彼らもまた国民会議に参加した。国民会議への参加という共通点をもつ彼らは、宗教的な出自を問わず、J.S. ミルを民主主義の教師と見なした。他方で、クシャトリアを出自とし、伝統的支配層に属するシンは、J.S. ミルを重視したが、その解釈は、彼らとは異なっていた。シンが J.S. ミルから引用するのは、統治形態は各国民の状態に適合していなければならない、といった主張であり、自らの反国民会議、反民主主義的見解の論拠とするためだった。

受容は政策の形態をとることもある。長尾明日香「19世紀インドにおける経済学教育:ボンベイ管区を中心に」は、19世紀インドにおける経済学教育を例に、インドの視点を探究する。イギリス東インド会社支配下のインドにおける経済学教育のはじまりは、キリスト教宣教団による布教や東インド会社によるインド人法曹育成政策などに起因する、計画性のない偶然的状況によるものだった。経済学教育は、19世紀に入って、インド諸語による経済学文献が作成されるほどには発展した。だが、現地語(マラーティー語)で書かれた教科書を史料とする長尾論考によれば、1857年以前の経済学教育は東インド会社の支配を正当化することに役立つがゆえに有益

とされたに過ぎない。東インド会社支配に抗する、現地の民族主義的な経済論者はこうした経済学教育に反発した。とはいえ、ラーナデーに代表されるように、彼らはイギリスの経済学を積極的に学んだ。それはインドの経済問題に取り組むための入り口として、イギリスの経済学が重要だったからである。綿花輸出ブームの恩恵も受け、19世紀中葉は、ラーナデーのような著名なリーダーに限らず、多くのエリート層が経済学を学んだが、それは植民地支配への抵抗と貧困に苦しむ人びとへの共感ゆえだった。マドラス=ボンベイ飢饉を経済学が説明、救済できなかったことは、彼らの経済学への信頼を失わせた。

20 世紀におけるインドの視点は、アマルティア・センを例にとった、Taro Hisamatsu and Nobuhiko Nakazawa, "Thomas Robert Malthus's Investigation of the Cause of the Present High Price of Provisions (1800) and Amartva Kumar Sen" において分析された。9歳の若さで ベンガル飢饉(**1943-1944**)を経験したセンは、飢饉は食料供給の欠乏だけでなく、社会経済的 不平等にも起因するという認識をもった。センは『貧困と飢饉』(1981)において、20世紀にお ける大飢饉の原因を各国の食糧供給不足に求める食糧供給不足(FAD)論に反論した。先行研究 のなかには、センが批判する FAD アプローチを、マルサス『人口論』(1798) の飢饉に関する見 解と関連付けるものもある。久松・中澤論考はこの種の解釈を見直す。センは、マルサスの『食 この著作はケインズが注目するまでは忘れられており、センはケインズ 糧高価論』(1800) は『人口論』の単なる「補足」ではなく、交換権原アプローチ に続いてこの著作を重視した についての理論的分析だと解した。センによれば、マルサスはセンと同様に、「食糧不足を価格と 流通にかかわる行動と結びつける理論」を提示しており、飢饉の原因を FAD には求めていない。 センは『食糧高価論』で議論された教区手当のプラス効果を理論的に説明し、マルサスを交換権 原アプローチの先駆者と見なした。

#### (3) 受容史の重要性

以上のように本研究は幾つかの例示を通して、ヨーロッパの視点とインドの視点がどのように交わり、ときにすれ違い、またときに相互に影響関係をもつ様を明らかにしてきた。17-20 世紀という長い時間軸を扱うがゆえに、その通史的な変容を十分に追跡することはできていない。だが、本研究は、近年、インド研究において重視されない傾向にあった思想史、特に受容史的アプローチが、インド研究において有効なアプローチの一つであることを示すことができた。

# 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件(うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 14件)

1 . 書名名 中国 仮像・久松 太郎	【雑誌論文】 計18件(うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 14件)	
中澤 信彦・久陰 太郎   2   3   3   4   5   3   4   7   2023年   2023	1.著者名	4 . 巻
2 : 論文権題 マルサス®食糧価値論。の公刊とその影響 3 : 練誌名 マルサス®食糧価値論。の公刊とその影響 5 : 発行年 2023年 3 : 練誌名 マルサス≫会年報 6 : 最初と最後の頁 59-3-3 59-3		
マルサス*食糧高価論。の公刊とその影響   2023年   3 - 額証名   7 - サステクを末報   5 - 最初と最後の頁   59 - 93   59	中度 旧乡 人位 八郎	32
マルサス*食糧高価論。の公刊とその影響   2023年   3 - 額証名   7 - サステクを末報   5 - 最初と最後の頁   59 - 93   59		
3 . 結誌名 マルサス学会年報	2.論文標題	5.発行年
3 . 結誌名 マルサス学会年報	マルサス『食糧高価論』の公刊とその影響	2023年
表議論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
表議論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2 hP±+-67	て 見知に見後の方
超額論文の001(デジタルオブジェクト趨別子)なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 Nakazawa, Nobuhiko 16 2. 論文理題 Hiroshi Mizuta (1919-2023): A Life in Search of the Origin of Democracy 2023年 3. 雑誌名 Revue d'histoire de la Pensee Economique 5. 是行年 2023年 4. 登 10. 48611/isbn. 978-2-406-15997-1.p.0009 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 安川 隆司 2. 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか:ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち 2024年 3. 雑誌名 東京経大学会誌(経済学) 2. 263-291 超載記文の0001(デジタルオブジェクト趨別子)なし 5. 是行年 2024年 4. ② 321 1. 著者名 安川 隆司 5. 発行年 2024年 5. 発行年 2024年 1. 著者名 カープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1. 音者名 角田 俊男 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 3. 雑誌名 オープンアクセス 1. 著者名 カープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 3. 雑誌名 3. 雑誌名 カープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 6. 是初と監修の頁 23-101 2. 論文標題 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 3. 就誌名 3. 就誌名 3. 就誌名 4. 登 5. 発行年 2023年 3. 就誌名 5. 発行年 2023年 3. 就話名 5. 発行年 2023年 3. 就話名 5. 発行年 2023年 3. 就話名 5. 景行年 2023年 3. 就話名 5. 景行年 2023年 3. 就話名 5. 景行年 2023年 4. ② 2023年 5. 景行年 2023年 5. 景行年 2023年 5. 景行年 2023年 5. 景行年 2023年 5. 景介年 2023年 6. 是初と監修の頁 23-101		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 1 番名名 Nakazawa, Nobuhiko 4. 巻 16 2. 論文標題 1 1. 著名名 Nakazawa, Nobuhiko 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 6. 最初と厳後の頁 15-22 2 2023年 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	マルサス学会年報	59-93
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 1 番名名 Nakazawa, Nobuhiko 4. 巻 16 2. 論文標題 1 1. 著名名 Nakazawa, Nobuhiko 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 6. 最初と厳後の頁 15-22 2 2023年 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 1 番名名 Nakazawa, Nobuhiko 4. 巻 16 2. 論文標題 1 1. 著名名 Nakazawa, Nobuhiko 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 6. 最初と厳後の頁 15-22 2 2023年 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 1 番名名 Nakazawa, Nobuhiko 4. 巻 16 2. 論文標題 1 1. 著名名 Nakazawa, Nobuhiko 5. 発行年 2023年 3. 雑誌名 6. 最初と厳後の頁 15-22 2 2023年 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		* * * * * * *
1	掲載舗又のDOT(テンタルオノシェクト識別子)	(金融の有無)
1 著名名   Nakazawa, Nobuhiko   1	なし	有
1 著名名   Nakazawa, Nobuhiko   1		
1 著名名   Nakazawa, Nobuhiko   1	オープンマクセフ	日欧什茎
1. 著者名   1.		当际共有
Nakazawa, Nobuhiko   16   2 . 論文標題	オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
Nakazawa, Nobuhiko   16   2 . 論文標題		
Nakazawa, Nobuhiko   16   2 . 論文標題	1 英老夕	л <b>Ж</b>
2 . 論文標題 Hi roshi Mizuta (1919-2023): A Life in Search of the Origin of Democracy       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 Revue d'histoire de la Pensee Economique       6 . 最初と最後の頁 15-22         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009       童誘の有無 有         オープンアクセス 2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       1 . 巻 321         2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       5 . 発行年 2024年         3 . 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)       6 . 最初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       童読の有無 無         1 . 著者名 角田 俊男       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とブリテン帝国       ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       童読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		_
### Hiroshi Mizuta (1919-2023): A Life in Search of the Origin of Democracy  2023年  3 . 雑誌名 Revue d'histoire de la Pensee Economique  15-22  #### A Pensee Economique  #### 10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009  ### 10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009  ### 1	Nakazawa, Nobuhiko	16
### Hiroshi Mizuta (1919-2023): A Life in Search of the Origin of Democracy  2023年  3 . 雑誌名 Revue d'histoire de la Pensee Economique  15-22  #### A Pensee Economique  #### 10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009  ### 10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009  ### 1		
### Hiroshi Mizuta (1919-2023): A Life in Search of the Origin of Democracy  2023年  3 . 雑誌名 Revue d'histoire de la Pensee Economique  15-22  #### A Pensee Economique  #### 10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009  ### 10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009  ### 1	2 論文標語	5 発行年
8 evue d'histoire de la Pensee Economique 15-22		
Revue d'histoire de la Pensee Economique   15-22	пноын міzuta (1919-2023): A Life in bearch of the Origin of Democracy	2023年
Revue d'histoire de la Pensee Economique   15-22		
Revue d'histoire de la Pensee Economique   15-22	3.雑誌名	6 . 最初と最後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009     有       オープンアクセス     国際共著       1.著者名 安川 隆司     4.巻 321       2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     5.発行年 2024年       3.雑誌名 東京経大学会誌(経済学)     6.最初と最後の頁 263-291       掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし     重読の有無 無       オープンアクセス     国際共著 -       1.著者名 角田 俊男     4.巻 55       2.論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」     5.発行年 2023年	nevue u mistome de la rensee comonique	10-22
10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009     有       オープンアクセス     国際共著       1.著者名 安川 隆司     4.巻 321       2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     5.発行年 2024年       3.雑誌名 東京経大学会誌(経済学)     6.最初と最後の頁 263-291       掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし     重読の有無 無       オープンアクセス     国際共著 -       1.著者名 角田 俊男     4.巻 55       2.論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」     5.発行年 2023年		
10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009     有       オープンアクセス     国際共著       1.著者名 安川 隆司     4.巻 321       2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     5.発行年 2024年       3.雑誌名 東京経大学会誌(経済学)     6.最初と最後の頁 263-291       掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし     重読の有無 無       オープンアクセス     国際共著 -       1.著者名 角田 俊男     4.巻 55       2.論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」     5.発行年 2023年		
10.48611/isbn.978-2-406-15997-1.p.0009     有       オープンアクセス     国際共著       1.著者名 安川 隆司     4.巻 321       2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     5.発行年 2024年       3.雑誌名 東京経大学会誌(経済学)     6.最初と最後の頁 263-291       掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし     重読の有無 無       オープンアクセス     国際共著 -       1.著者名 角田 俊男     4.巻 55       2.論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」     5.発行年 2023年	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス       国際共著         1. 著者名 安川 隆司       4. 巻 321         2. 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたが:ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       5. 発行年 2024年         3. 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)       6. 最初と最後の頁 263-291         掲載論文のD01(デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       1. 著者名 角田 俊男         2. 論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6. 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のD01(デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	10.40011/15DN.978-2-400-1099/-1.p.0009	1年
オープンアクセスとしている(また、その予定である)		
オープンアクセスとしている(また、その予定である)		国際共著
1 . 著者名 安川 隆司       4 . 巻 321         2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       5 . 発行年 2024年         3 . 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)       6 . 量初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス		
安川隆司       321         2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       5 . 発行年 2024年         3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学)       6 . 最初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       面際共著 -         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	3 JJJJENEOUVIN (S.C., COUTE COND)	
安川隆司       321         2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       5 . 発行年 2024年         3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学)       6 . 最初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       面際共著 -         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
安川隆司       321         2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       5 . 発行年 2024年         3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学)       6 . 最初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       面際共著 -         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	1.著者名	4.巻
2. 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       5. 発行年 2024年         3. 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)       6. 最初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       重読の有無 無         オープンアクセス 有用 俊男       国際共著         2. 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5. 発行年 2023年         3. 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6. 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし       重読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       2024年         3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学)       6 . 最初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難       国際共著 -         1 . 著者名 角田 俊男       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	安川 降司	321
ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち       2024年         3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学)       6 . 最初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難       国際共著 -         1 . 著者名 角田 俊男       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	安川 隆司	321
3.雑誌名東京経大学会誌(経済学)       6.最初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無         オーブンアクセス       国際共著 -         1.著者名角田俊男       4.巻 55         2.論文標題多神教とブリテン帝国ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5.発行年 2023年         3.雑誌名武蔵大学人文学会雑誌       6.最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無無         オーブンアクセス       国際共著		
3.雑誌名東京経大学会誌(経済学)       6.最初と最後の頁 263-291         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無         オーブンアクセス       国際共著 -         1.著者名角田俊男       4.巻 55         2.論文標題多神教とブリテン帝国ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5.発行年 2023年         3.雑誌名武蔵大学人文学会雑誌       6.最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無無         オーブンアクセス       国際共著	2 . 論文標題	5.発行年
東京経大学会誌(経済学)       263-291         掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無無         オープンアクセス       国際共著 -         1. 著者名角田 俊男       4. 巻 55         2. 論文標題多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5. 発行年2023年         3. 雑誌名武蔵大学人文学会雑誌       6. 最初と最後の頁23-101         掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無無         オープンアクセス       国際共著	2 . 論文標題	5.発行年
東京経大学会誌(経済学)       263-291         掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無無         オープンアクセス       国際共著 -         1. 著者名角田 俊男       4. 巻 55         2. 論文標題多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5. 発行年2023年         3. 雑誌名武蔵大学人文学会雑誌       6. 最初と最後の頁23-101         掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無無無         オープンアクセス       国際共著	2 . 論文標題	5.発行年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 角田 俊男 2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」 3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌 - おし	2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち	5.発行年 2024年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 角田 俊男 2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」 3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌 - おし	2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち 3.雑誌名	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁
# オープンアクセス	2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち 3.雑誌名	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁
# オープンアクセス	2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち 3.雑誌名	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁
# オープンアクセス	2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち 3.雑誌名	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著         1 . 著者名 角田 俊男       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	2. 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     3. 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著         1 . 著者名 角田 俊男       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 角田 俊男       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 角田 俊男       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無
1 . 著者名 角田 俊男       4 . 巻 55         2 . 論文標題 多神教とプリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」       5 . 発行年 2023年         3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌       6 . 最初と最後の頁 23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)     なし	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無
角田 俊男552.論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」5.発行年 2023年3.雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌6.最初と最後の頁 23-101掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)     なし  オープンアクセス	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無
角田 俊男552.論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」5.発行年 2023年3.雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌6.最初と最後の頁 23-101掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)     なし  オープンアクセス	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無
角田 俊男552.論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」5.発行年 2023年3.雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌6.最初と最後の頁 23-101掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち     3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)     なし  オープンアクセス	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無
2.論文標題       5.発行年         多神教とブリテン帝国       ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」         3.雑誌名       6.最初と最後の頁         武蔵大学人文学会雑誌       23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著	2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち  3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学)  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著
多神教とブリテン帝国ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」2023年3.雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌6.最初と最後の頁 23-101掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち 3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著
多神教とブリテン帝国ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」2023年3.雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌6.最初と最後の頁 23-101掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち 3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著
多神教とブリテン帝国ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」2023年3.雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌6.最初と最後の頁 23-101掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち 3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著
3.雑誌名       6.最初と最後の頁         式蔵大学人文学会雑誌       23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著	2 . 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち  3 . 雑誌名     東京経大学会誌 (経済学)  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)     なし  オープンアクセス	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著
武蔵大学人文学会雑誌       23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち      3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)     なし  オープンアクセス	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55
武蔵大学人文学会雑誌       23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち      3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)     なし  オープンアクセス	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55
武蔵大学人文学会雑誌       23-101         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち      3. 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オーブンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      1. 著者名 角田 俊男      2. 論文標題 多神教とブリテン帝国 グウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 国際共著	<ul> <li>2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち</li> <li>3.雑誌名 東京経大学会誌(経済学)</li> <li>掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし</li> <li>オープンアクセス</li></ul>	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55
なし 無 オープンアクセス 国際共著	2. 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち      3. 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      1. 著者名 角田 俊男      2. 論文標題 多神教とブリテン帝国  ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」      3. 雑誌名	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
なし 無 オープンアクセス 国際共著	2. 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち      3. 雑誌名     東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)     なし  オープンアクセス     オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      1. 著者名     角田 俊男      2. 論文標題     多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」      3. 雑誌名	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
なし 無 オープンアクセス 国際共著	2. 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち      3. 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      1. 著者名 角田 俊男      2. 論文標題 多神教とブリテン帝国  ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」      3. 雑誌名	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
なし 無 オープンアクセス 国際共著	2. 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち      3. 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      1. 著者名 角田 俊男      2. 論文標題 多神教とブリテン帝国  ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」      3. 雑誌名	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著	<ul> <li>2.論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか: ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち</li> <li>3.雑誌名 東京経大学会誌(経済学)</li> <li>掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし</li> <li>オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難</li> <li>1.著者名 角田 俊男</li> <li>2.論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」</li> <li>3.雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌</li> </ul>	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 23-101
	<ul> <li>2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち</li> <li>3 . 雑誌名 東京経大学会誌 (経済学)</li> <li>掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし</li> <li>オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難</li> <li>1 . 著者名 角田 俊男</li> <li>2 . 論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」</li> <li>3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌</li> <li>掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)</li> </ul>	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 23-101 査読の有無
	<ul> <li>2 . 論文標題</li></ul>	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 23-101 査読の有無
	2 . 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち      3 . 雑誌名     東京経大学会誌 (経済学)  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)     なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 角田 俊男  2 . 論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」  3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 23-101 査読の有無 無
カーノノアッピ人(COCMの(おた、COM)をCのの) -	2 . 論文標題     ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち      3 . 雑誌名     東京経大学会誌 (経済学)  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)     なし  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 角田 俊男  2 . 論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」  3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 23-101 査読の有無 無
	<ul> <li>2 . 論文標題 ミル父子はインドでどのように読まれたか : ミル父子と19世紀後半のインドの知識人たち</li> <li>3 . 雑誌名 東京経大学会誌(経済学)</li> <li>掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし</li> <li>オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難</li> <li>1 . 著者名 角田 俊男</li> <li>2 . 論文標題 多神教とブリテン帝国 ダウ、ギボン、ローイの「批評・哲学的歴史」</li> <li>3 . 雑誌名 武蔵大学人文学会雑誌</li> <li>掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし</li> <li>オープンアクセス</li> </ul>	5 . 発行年 2024年 6 . 最初と最後の頁 263-291 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 55 5 . 発行年 2023年 6 . 最初と最後の頁 23-101 査読の有無 無

1.著者名	,
' . 13 보니	4 . 巻
苅谷 千尋	31
2 . 論文標題	5 . 発行年
ボンベイのジェームズ・マッキントッシュ : スコットランド啓蒙の植民地統治	2024年
a Abble of	6 B40 L D // - T
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
政策科学	73-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.34382/0002000641	無
10.34362/0002000041	***
オープンアクセス	国際共著
	国际共有
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4 . 巻
中澤 信彦	31
2.論文標題	5.発行年
マルサス経済学の知性史的文脈 ロックの認識論から『人口論』へ、そして『経済学原理』へ	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
マルサス学会年報	33 ~ 66
掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
+	同咖井茶
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 . 著者名	4 . 巻
Nakazawa Nobuhiko	82
2.論文標題	5.発行年
2. Reviewing the Development of Malthus's Ideas on Educational and Parliamentary Reforms from	2022年
1803 to 1806	
	6.最初と最後の頁
	6.最初と最後の貝 61~85
3.雑誌名	
3.雑誌名	
3.雑誌名 Cahiers d'Economie Politique	61 ~ 85
3.雑誌名 Cahiers d'Economie Politique 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	61~85 査読の有無
3.雑誌名 Cahiers d'Economie Politique	61 ~ 85
3.雑誌名 Cahiers d'Economie Politique 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061	61~85 査読の有無 有
3.雑誌名 Cahiers d'Economie Politique 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061	61~85 査読の有無
3.雑誌名 Cahiers d'Economie Politique 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061	61~85 査読の有無 有
3.雑誌名 Cahiers d'Economie Politique 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061 オープンアクセス	61~85 査読の有無 有
3.雑誌名 Cahiers d'Economie Politique 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	61~85 査読の有無 有 国際共著
3.雑誌名     Cahiers d'Economie Politique     掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)     10.3917/cep1.082.0061 オープンアクセス     オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名	61~85 査読の有無 有 国際共著 -
3.雑誌名 Cahiers d'Economie Politique  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	61~85 査読の有無 有 国際共著
3.雑誌名     Cahiers d'Economie Politique  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)     10.3917/cep1.082.0061  オープンアクセス     オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名     久松 太郎、中澤 信彦、王 量亮	61~85 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 74
3 . 雑誌名         Cahiers d'Economie Politique	61~85 査読の有無 有 国際共著 -
3 . 雑誌名     Cahiers d'Economie Politique	61~85 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 74
3 . 雑誌名         Cahiers d'Economie Politique	61~85 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 74 5.発行年
3 . 雑誌名     Cahiers d'Economie Politique     掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)     10.3917/cep1.082.0061 オープンアクセス     オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名     久松 太郎、中澤 信彦、王 量亮  2 . 論文標題 マルサス『食糧高価論』(1800年)	61~85 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 74 5 . 発行年 2022年
3 . 雑誌名     Cahiers d'Economie Politique     掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)     10.3917/cep1.082.0061 オープンアクセス     オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名     久松 太郎、中澤 信彦、王 量亮  2 . 論文標題     マルサス『食糧高価論』(1800年) 3 . 雑誌名	61~85 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 74 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
3 . 雑誌名     Cahiers d'Economie Politique	61~85 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 74 5 . 発行年 2022年
3 . 雑誌名 Cahiers d'Economie Politique  引載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 久松 太郎、中澤 信彦、王 量亮 2 . 論文標題 マルサス『食糧高価論』(1800年) 3 . 雑誌名	61~85 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 74 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁
3 . 雑誌名 Cahiers d'Economie Politique  引載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 久松 太郎、中澤 信彦、王 量亮  2 . 論文標題 マルサス『食糧高価論』(1800年)  3 . 雑誌名 同志社商学 = Doshisha Shogaku (The Doshisha Business Review)	61~85 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 74 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 145~164
3 . 雑誌名 Cahiers d'Economie Politique  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 久松 太郎、中澤 信彦、王 量亮  2 . 論文標題 マルサス『食糧高価論』(1800年)  3 . 雑誌名 同志社商学 = Doshisha Shogaku (The Doshisha Business Review)	61~85
3 . 雑誌名 Cahiers d'Economie Politique  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061  オープンアクセス	61~85 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 74 5 . 発行年 2022年 6 . 最初と最後の頁 145~164
3 . 雑誌名         Cahiers d'Economie Politique         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)         10.3917/cep1.082.0061         オープンアクセス         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名         久松 太郎、中澤 信彦、王 量亮         2 . 論文標題         マルサス『食糧高価論』(1800年)         3 . 雑誌名         同志社商学 = Doshisha Shogaku (The Doshisha Business Review)         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	61~85
3 . 雑誌名 Cahiers d'Economie Politique 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3917/cep1.082.0061  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 久松 太郎、中澤 信彦、王 量亮  2 . 論文標題 マルサス『食糧高価論』(1800年)  3 . 雑誌名 同志社商学 = Doshisha Shogaku (The Doshisha Business Review)  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00029054	61~85
3 . 雑誌名         Cahiers d'Economie Politique         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)         10.3917/cep1.082.0061         オープンアクセス         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名         久松 太郎、中澤 信彦、王 量亮         2 . 論文標題         マルサス『食糧高価論』(1800年)         3 . 雑誌名         同志社商学 = Doshisha Shogaku (The Doshisha Business Review)         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	61~85

	4 . 巻
- 1 日日日 - 角田 俊男	54-1
2 . 論文標題	5.発行年
東インド会社論争とロバートソン『インド史論』 哲学的歴史と古事文献学	2023年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
武蔵大学人文学会雑誌	27-62
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	<del>無</del>
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 . 著者名	4.巻
角田 俊男	第53巻第3・4号
2 . 論文標題	5 . 発行年
『両インド史』とラムモーハン・ローイの市民宗教	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
武蔵大学人文学会雑誌	129-168
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	
1 . 著者名	4 . 巻
長尾明日香	0
2 . 論文標題	5 . 発行年
植民地的言説の「外側」:自治体としてのボンベイ市の起源	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
南アジア 民主政治と国際政治のダイナミズム (KINDAS研究グループ2最終成果報告書)	136-145
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著
7 JJJ J EXCOCNS ( & E.C. CO) JE COS)	
1 . 著者名	4 . 巻
長尾 明日香	33
2. 論文標題	5 . 発行年
19世紀インドにおける経済学教育:ボンベイ管区を中心に	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
RINDASワーキングペーパー	1-26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

1 . 著者名	4 . 巻
中澤信彦	第9巻第2号
2.論文標題	5.発行年
人間本性・共感・習俗:バーク『崇高と美の探究』の社会思想	2022年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
経済学研究(愛知学院大学経済学会)	37-52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	<u> </u>   査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 . 著者名	4 . 巻
Nakazawa, Nobuhiko	313
2.論文標題	5 . 発行年
Burke's Nuanced Praise of Smith's Theory of Moral Sentiments: The Religious Character of Burke's Notion of the Sublime in His Philosophical Enquiry	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Studies in Burke and His Time	72-84
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	<u></u>   査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1 . 著者名	4 . 巻
安川 隆司	313
2.論文標題	5 . 発行年
ヒンドゥーと「丘の部族」 : J. S. ミルのインド論に関する一考察	2022年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
東京経大学会誌(経済学)	247 - 265
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
なし	無無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 . 著者名	4 . 巻
苅谷千尋	28-3
2.論文標題	5 . 発行年
戦時下の雄弁:マッキントッシュの『国王殺し政府との講和書簡』(バーク著)	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
政策科学	51-71
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	   査読の有無
10.34382/00014305	<b>#</b>
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-

1.著者名 Nakazawa, Nobuhiko	<b>4</b> . 巻 62-1
2.論文標題 "'As One of the Swinish Multitude': A Note on Malthus's Allusion to Burke's Reflections"	5.発行年 2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
The History of Economic Thought (『経済学史研究』)	78-86
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.5362/jshet.62.1_78	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 英型々	
1 . 著者名 角田俊男	4.巻 52
2.論文標題 オランダ東インド会社の自由な海を閉じるリヴァイアサン	5 . 発行年 2021年
3.雑誌名 人文学会雑誌	6.最初と最後の頁 198-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 1件/うち国際学会 2件)	
1.発表者名 中澤 信彦	
2.発表標題 マルサスとレーニン	
3.学会等名 第78回経済思想研究会(於東北大学)	
4 . 発表年 2024年	
1.発表者名 中澤 信彦	
2.発表標題 「バークとインド」はどのように論じられてきたのか? 研究史から見えてくるもの	
3.学会等名 第22回保守的自由主義研究会(於大阪公立大学)	

4 . 発表年 2024年

1.発表者名 Nakazawa,Nobuhiko
2 . 発表標題 Hiroshi Mizuta (1919–2023): A Life in Search of the Origin of Democracy
3 . 学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy, Meiji University, Tokyo, Japan (国際学会)
4 . 発表年 2023年
1.発表者名 中澤 信彦
2.発表標題
2. 元代信題 経済学誕生以前の経済認識の枠組みはいかなるものであったか ポリュビオス、アウグスティヌス、マキャヴェリ
3.学会等名
経済学史学会第44回東北部会(於弘前大学)
4.発表年
2023年
1.発表者名 苅谷 千尋
2.発表標題 ワイトの支配的国家論:あるいはその歴史叙述
3.学会等名
英国学派研究会:マーティン・ワイト『パワー・ポリティクス』を読む
4 . 発表年 2024年
1 . 発表者名 中澤信彦・久松太郎・王量亮・藤岡裕大・柯斌曦
2
2.発表標題 【資料紹介】新訳マルサス『食糧高価論』
3 . 学会等名 マルサス第31回大会
4 . 発表年
4. <del>第</del> 表年 2022年

1.発表者名
Nakazawa, Nobuhiko and Hisamatsu, Taro
nanazana, nobamba ana mbamatsa, tato
2.発表標題
T. R. Malthus's Investigation of the Cause of the Present High Price of Provisions (1800) and Amartya Kumar Sen
1. N. Martinus 3 investigation of the cause of the fresent ingliffice of froots (1000) and Amartya Number Sen
3.学会等名
The International Workshop on Classical Political Economy 2023, Rikkyo University, Tokyo, Japan (国際学会)
me international workshop on crassical rotifical Economy 2025, Kirkyo oniversity, Tokyo, Japan (国际子云)
4.発表年
2023年
1.発表者名
苅谷 千尋
o 7% ≠ 1≅ 0≍
2.発表標題
植民地インドのナラティヴ:バークとマッキントッシュ
2 24 4 77 73
3.学会等名
日本アイルランド協会(招待講演)
4.発表年
2021年
1.発表者名
中澤 信彦
2.発表標題
人間本性・共感・習俗 バーク『崇高と美の探究』の社会思想
3.学会等名
日本イギリス哲学会
4.発表年
2021年
20214
1.発表者名
長尾明日香
KI CHEE
2.発表標題
植民地期インド西部の初等・中等教育読本におけるイギリスの国家体制の表象(1820~1870年)
3.学会等名
日本南アジア学会第33回全国大会
ロ中市ノファテムカの口工門八五
A The tr
4.発表年
2020年

ſ	図書	1	計2 <sup>6</sup>	仕

1 . 著者名 久保真・中澤信彦 編	4 . 発行年 2023年		
2.出版社 昭和堂	5.総ページ数 <sup>288</sup>		
3.書名 経済学史入門 経済学方法論からのアプローチ			

1 . 著者名 C. H. アレクサンドロヴィッチ著 (D. アーミティジ、J. ピッツ編、大中真ほか訳 )	4 . 発行年 2020年
2.出版社 日本経済評論社	5 . 総ページ数 281
3.書名『グローバル・ヒストリーと国際法』 第1章「カウティリヤの原理と諸国民の法」	

# 〔産業財産権〕

〔その他〕

# 6. 研究組織

6	. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	中澤 信彦	関西大学・経済学部・教授	
研究分担者	(Nakazawa Nobuhiko)		
	(40309208)	(34416)	
	角田 俊男	武蔵大学・人文学部・教授	
研究分担者	(Tsunoda Toshio)		
	(20227458)	(32677)	
研究分担者	安川 隆司 (Yasukawa Ryuji)	東京経済大学・経済学部・教授	
担者	(40230213)	(32649)	

6.研究組織(つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考	
	長尾 明日香	大阪市立大学・大学院文学研究科・都市文化研究センター研		
		究員		
研				
究				
分担	(Nagao Asuka)			
者				
-				
	(90758319)	(24402)		

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------